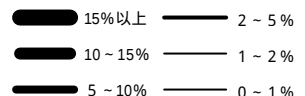


6) 区別の生活圏
川崎区

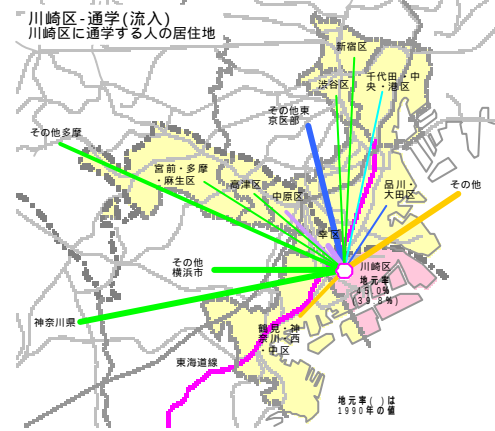
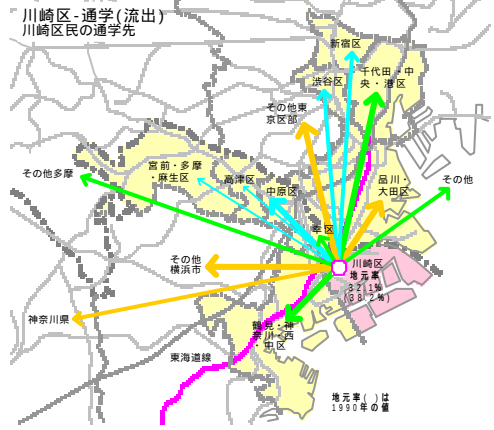
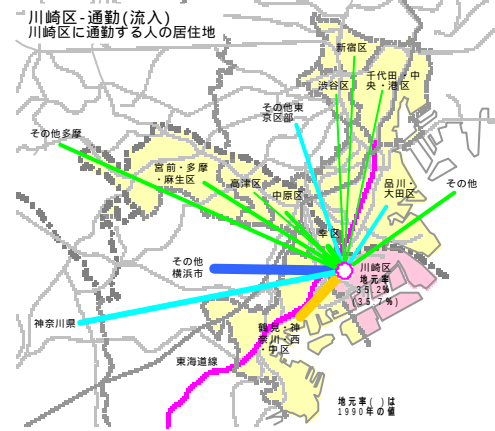
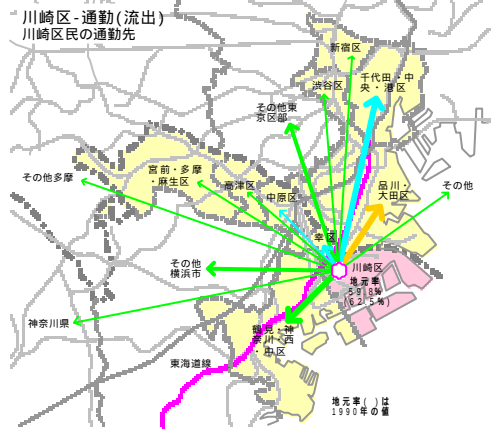
- 通勤及び私事とも地元率が高い
- 区外への通勤及び私事の流出では、東海道線沿線方向が中心となっている。通勤では東海道線沿線以外の東京区部や横浜市も増加しており、通勤圏の広域化・多様化が進んでいる
- 川崎区への流入は、通勤では東京区部からは減少している一方で、買物や娯楽等は増加しており、商業・サービスなどの結び付きが強まっている
- 通勤では川崎市内の南武線方向が増加しているものの、買物などの構成比は低い

目的別流動状況

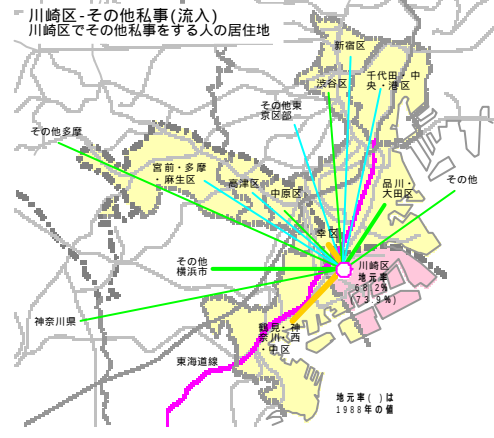
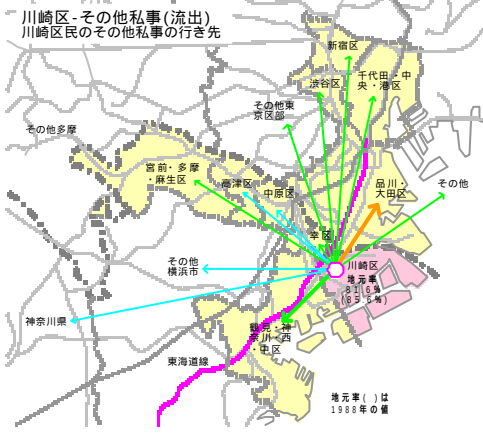
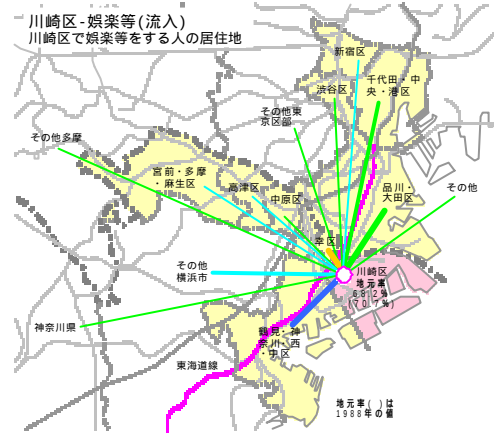
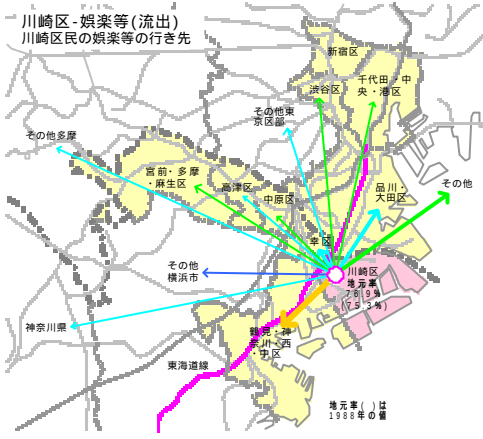
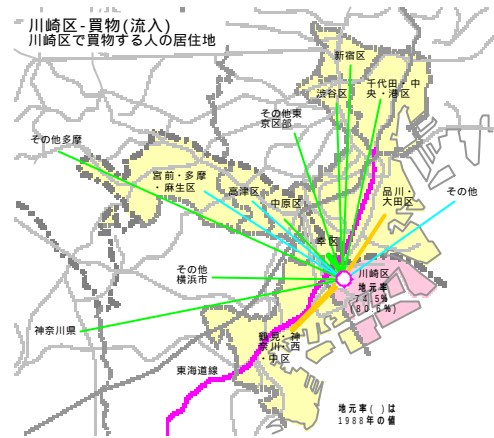
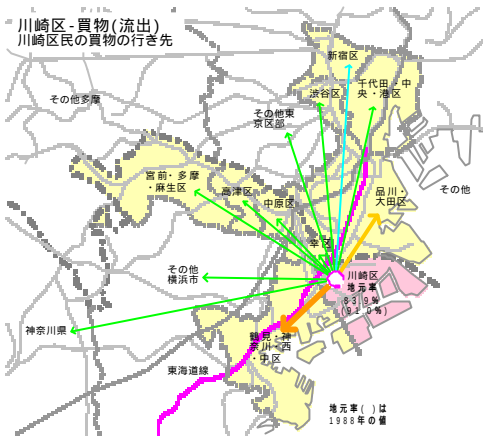
構成比(線の太さ)



構成比の変化(線の色)



資料：国勢調査(1990年、2000年)



資料：パーソナリティ調査(1988年、1998年)